



**KONOIKE
GROUP**

鴻池運輸株式会社

大阪本社

〒541-0044 大阪市中央区伏見町4-3-9

TEL 06-6227-4600(代)

東京本社

〒104-0061 東京都中央区銀座6-10-1

TEL 03-3575-5751(代)

2019年3月発行

KONOIKE GROUP

EPISODE BOOK

現場の力



KONOIKE
GROUP

私たちの約束

期待を超えなければ、 仕事ではない

人や社会の思いを超えて、
一歩先の暮らしに貢献する、新しい価値を追求する。
それが、百数十年続いてきたKONOIKEの仕事。
進化し続けるこの先の百年もぶれることのない、私たちの約束だ。

原点であるすべての現場には、誰にも負けない本当の覚悟がある。

人のために、人を磨き、人をつくる。
時に大切な仲間の命をも預かる、人の絆という覚悟。
社会の信頼に応え、挑戦し、実現する。
時にこの国の暮らしを変えていく、革新という覚悟。

さあ、期待を超え、境界を越え、常識を超えていこう。
昨日までの自分を超えることから、明日への一歩がはじまる。



現場を支える一人ひとりの強い意志と覚悟の集合体が、KONOIKEブランド。

お客様の想像や社会からの期待を、一步でも超えたところに、これまでの課題を解決する新しい価値が生まれる。KONOIKEとは、そんな真摯な眼差しを持った一人ひとりで構成される、熱い現場の集合体だ。常に挑戦者であること。時代の変化を自分のものにして、次世代を背負う存在になっていく。それが、私たちが掲げる「プロフェッショナルサービス」。今日も一人ひとりが、昨日までの自分を超えていく。



期待を超えて、挑戦し続ける

KONOIKEの現場は、さまざまな業態で構成されています。物流を中心に広がってきたジャンルの幅広さは、お客様や社会からの期待を一步ずつ超えて、それぞれの現場が日々挑戦を続けてきた証でもあるのです。大切な仲間の命を預かる現場もある。チームワークがすべてという現場もある。人々の暮らしを変えていく新しい価値創造の現場もある。しかし、それぞれの現場の、一人ひとり



01

世の中で使われているものを、
私の手でつくっている。

西村 純子
鹿島支店 薄板課



02

人の命に関わる現場にも、
物流の力が貢献している。

仲田 浩士
鴻池メディカル株式会社
東京物流営業所 主任



03

お客様の期待を超えるところに、
感動が生まれる。

山本 雅代
株式会社Kスカイ 羽田事業所 所長



04

ルールを守り、品質を守る。
それが、信頼という力になる。

堤 則文
東海支店 名古屋西営業所
サブグループリーダー

ストーリーがある

の覚悟と仲間を想う気持ちは、どこにいても変わらないはず。本当の覚悟を持って、本当に人のために尽くす。だから、本当の信頼、真の絆が生まれ、社会の基盤を革新し、次の社会を切り拓いていくことができるのです。そんな期待を超える仕事の裏側には、それぞれの現場に息づく、熱い意志と情熱がある。さあ、KONOIKEブランドを形づくる、一人ひとりの挑戦のストーリーをご紹介します。



05

全員が働きやすい環境をつくることも、大切な仕事です。

比留間 友美

東日本支店 青梅流通センター営業所
サブグループリーダー



06

魔法はない。みんながひとつになって、同じ方向を向くこと。

原 広幸

関東支店 神栖営業所
チーフリーダー



07

仕事も、環境も、柔軟な発想で壁を越えていきたい。

寺垣 美穂

国際物流関西支店 広島営業所 副長



08

社員の考え方やお客様を想う気持ちが、ブランドを強くする。

金丸 康宏

関西中央支店 滋賀流通センター営業所 副長



現場の力

01

世の中で使われているものを、
私の手でつくっている。

鹿島支店 薄板課

西村 純子

**16,000t 鍛造プレス機が稼働する時の
経験したことのない体の揺れが、
この仕事を志望するきっかけでした。**

鹿島製鉄所の熱延工場は、操業開始以来コイルの梱包などの生産業務に携わってきた、KONOIKEの数ある現場の中でも歴史ある場所です。まだ男社会といわれている「鉄の現場」で、私のような女性がこうして活躍させてもらえることが、KONOIKEの魅力なのかなって思います。東京で働きたいとか、もっときれいな仕事がしたいと考える女性が多いと思いますが、私の場合は、同級生とは違う仕事ができていることが魅力です。学生時代から海外の物流に関心があり、最初は国際物流を志望していました。ところが、入社後配属された営業所でプレス機の現場を見た際に、16,000t鍛造プレス機の稼働が衝撃的で、この仕事を志望しました。それまで経験したことのない感覚を覚えて、すごいな、ここに入りたいな、って思ったんです。

**普通の女性が経験できないことをやる。
それが、仕事の楽しさです。**

世の中の普通の女性が経験していないことをやっているという自覚が、仕事の楽しさの根本にあります。そして、「世の中で使われているものを私の手でつくっている」という喜びが大きいですね。コ

イルはステンレス素材なので高級品です。ステンレス製キッチンのCMを見ると、このコイル？って思います(笑)。自分たちが関わった製品が世の中のさまざまなところで使われていることに誇りを感じます。

**ライバルに負けたくない。
「期待を超える」は、ワクワクする言葉。**

以前所属していた営業所で、納期がせまる中、ライントラブルが発生したことがありました。発覚したのが夕方。お客様からは明日中に仕上げしてほしいとのオーダー。そこで、私も先輩方と一緒に作業着を着て、現場の皆さんと一緒にトラブル復旧対応にあたり、納期までに製品を出荷することができました。その時の一体感がすごかった。まさかの事態を乗り越えて、逆にお客様の期待を超える結果になりました。KONOIKEの人間は、他社の人とは全然違います。一番になりたいという人ばかり。私も、火がつく瞬間はライバル会社さんがお客様から評価された時。絶対負けたくない。KONOIKEとしてのプライドです。「期待を超える」というのは、私にとってはワクワクする言葉。先日結婚したのですが、鉄の現場で結婚後も働き続ける女性は初めてなので、ロールモデルになれるよう、私なりに頑張ってみようと思っています。



現場の力

02

人の命に関わる現場にも、
物流の力が貢献している。

鴻池メディカル株式会社 東京物流営業所 主任

仲田 浩士

**人の命に関わるリアルな現場。と同時に、
すごく面白い、多様性あふれる場所です。**

病院内の物流や、医療器具の洗浄・滅菌の代行、メーカー・卸様向けの機器製造・検品・メンテナンスや、製品保管・配送などの拠点運営といった、医療業界の中で、KONOIKEならではの物流の知見を活かしたさまざまな業務を手がけています。物流といっても、人の命に関わるリアルな現場。大切にしているのは、私たち自らが心身ともに健康でいることです。品質はそこからつくられると考えています。また、異業種から中途で入ってくるスタッフが多く活躍しているので、お互いのバックグラウンドからくる多様な側面からの意見が出て、事態が好転するようなヒントをもらえる。逆に言えば、チャンスが多く、実力を発揮できる場所がいろいろあるので、スタッフが自ら前向きに行動する風土がありますね。すごく面白い、多様性の場所だと思います。

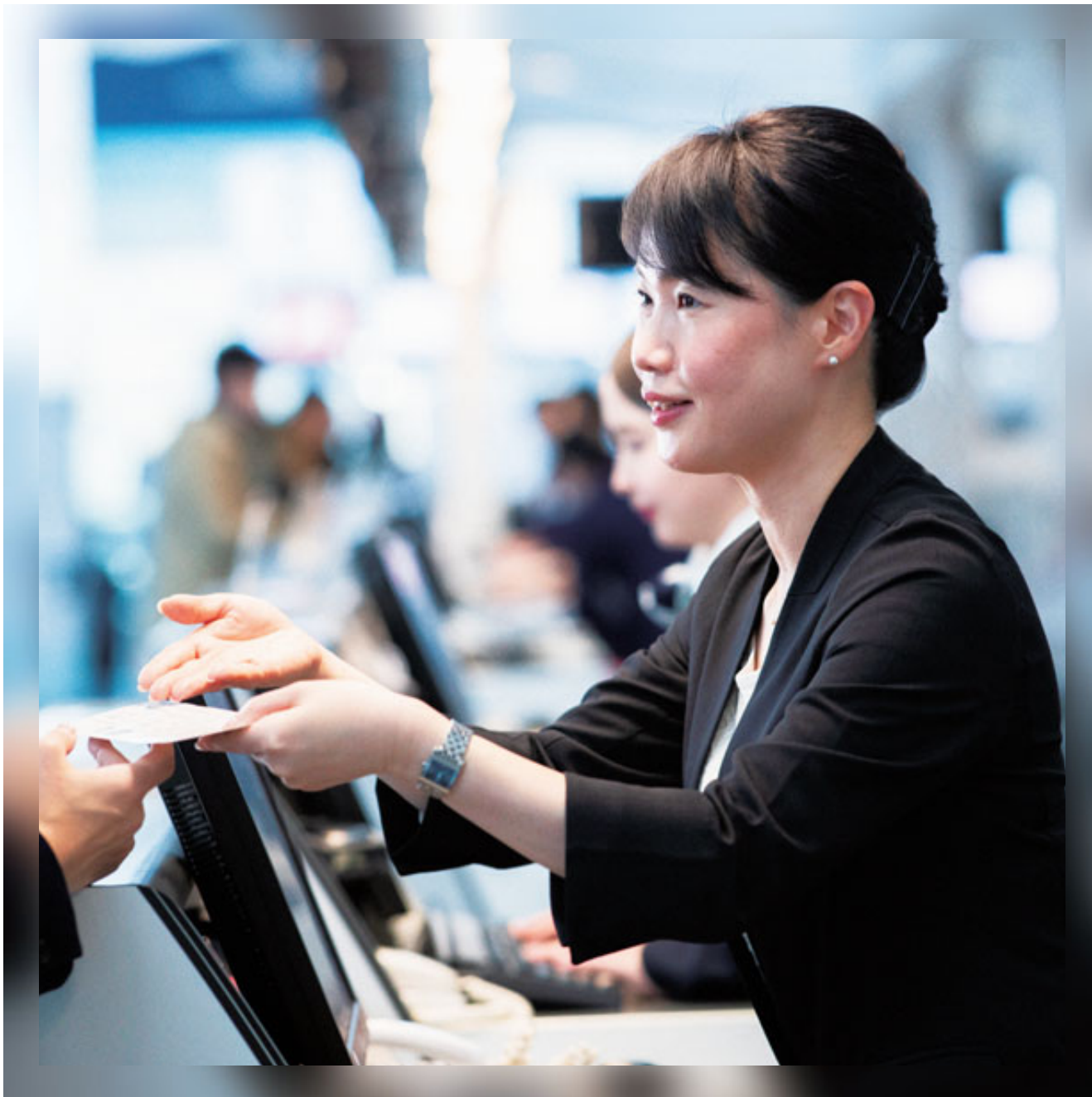
**作業品質への評価が、新しいご要望に。
お客様の期待を超えたうれしい瞬間でした。**

ある外資系メーカー様の業務受託が決まり、受託のために日本法人の国内拠点へ赴いた時のこと。私たちは複数メーカーの手術器械の洗浄経験が豊富で、慣れているので、先方の手術器械をチェックする際に、その場で素早く分解し、洗浄時

のポイントなどをご提案させていただいたんです。すると、「KONOIKEの技術や品質は高い!」と驚かれ、工程管理の方法なども含め、KONOIKEの目で見ても、いろいろ提案してほしいという新たなご要望につながりました。うれしかったですね。当時2名だったその部隊は、現在では10数名に拡大しています。

**総物流のDNAが、新たな社会貢献へ。
現場に新しい価値をフィードバックしていきたい。**

院内物流だけでなく、メーカー様向けの事業も同時に行なっているのは珍しいと思います。例えば、病院にインプラントを売りたいというメーカー様が海外から製品を輸入する際に、拠点探しや拠点の運営が必要となります。総物流のDNAを持つ私たちにはノウハウがあり、数多くの経験を持っているスタッフもいるので、もっとコンパクトにしたいとか一番効率良く運営したいという時に私たちを選んでいただければ、対応できる体制が整っています。さらに、医療機器再利用の法整備が進んでいる中、また新たな社会貢献につながるような事業の準備も考えています。そんな風に、いろいろなところにアンテナを張って、さらに知識や経験を増やしていき、現場やスタッフに新しい価値をフィードバックできるような魅力的な仕事がしたいと思っています。



現場の力

03

お客様の期待を超えるところに、
感動が生まれる。

株式会社Kスカイ 羽田事業所 所長

山本 雅代

自分自身の可能性に挑戦しながら、 未来のステージを、みんなで築いていく。

東京国際空港(羽田空港)内における、大手航空会社様などから私たちが請け負っている多様な業務の中で、旅客業務全般に現場責任者として携わっています。チェックインカウンター業務や発着ゲート業務、クレーム対応といったさまざまな内容の業務を、100名を超えるスタッフで担当し、私自身は20年以上に及ぶ関西国際空港での勤務を経て、羽田空港の責任者として赴任しました。大きく成長している羽田空港の現場は、若いスタッフが中心。自分の力を試しながら、みんなと一緒に未来のステージを築き上げている真っ最中です。株式会社Kスカイはもともと航空会社のグループ会社でしたが、2010年にKONOIKEグループ入りしました。現在のように“インバウンド”という言葉もない頃から、その先の空港業務の発展を見据えてグループへの加入を決断してくれたKONOIKEへの恩義も返したいですし、管理職に推薦してくれた上司の期待に報いる形でも頑張りたいと思っています。

人に成長させてもらう。 それが、仕事の真髄だと思えます。

人に成長させてもらうこと。それが仕事だと思っています。機内食のことでクレームをくださったあるお客様と話し込んだ時のこと。そのお客様の息子さんパイロットを目指していて、親として夢を手伝っ

てあげたいと。「大変厳しく育てているが、そんな親心は自分がいなくなってからいつか分かってくれればいい。あなたの会社も、社員を愛情深く、厳しく育てるような“親心”を持つ会社であってほしい」という、本当に深いお考えをお持ちだったのです。そんな人生を揺さぶられるようなお話に感動し、私もお客様とともに涙を流し合い、それからは何度も空港でお声をかけていただき、たくさんのお話をさせていただく関係になりました。

人の話をきちんと聞き、 想いを汲みながら、仕事を進めていく。

期待を超えるところにこそ感動が生み出され、お客様に再び選んでいただける。その大切さを、日々お客様と接する私たちは肌で感じています。でも、日々の現場の多忙さを理由についつい杓子定規な対応になってしまいがち。だから「期待を超えているか」というものさしをいつも意識し、自分から率先して体現していけば、まだまだ若い後輩たちもきっとついてきてくれると信じています。お客様対応より大変だと思う時もあるスタッフ育成ですが、一人ひとりの話をきちんと聞き、想いを汲みながら仕事を進めることを大切にしています。やはり、人の気持ちがあつての仕事。後輩の背中を押してあげたり、進むべき方向を示してあげられたりできれば、一番うれしいですね。みんな本当に頑張っているのです。伸びしろをもっと引き上げて、立派に育て上げたい。もう、母親のような気分になっています(笑)。



現場の力

04

ルールを守り、品質を守る。
それが、信頼という力になる。

東海支店 名古屋西営業所 サブグループリーダー

堤 則文

**率先して安全と安心をつくる姿勢。
それが、私たちが誇る文化です。**

トラックドライバーとして、ここ名古屋を拠点に約30年走り続けています。タンクローリーによる危険物(液体硫黄)の製油所からお客様への配送や、ウィング車など大型トラックによる一般貨物の輸送、さらに、添乗運転による新人ドライバーの教育指導などにも携わっています。これまで大きな事故もなくやってこられたのは、厳格にルールを守るというKONOIKEの文化があるからです。私が入社当時、多くの車がバンバン飛ばしていた頃から、速度制限には徹底して厳しかった。先輩方が率先して安全を守る姿勢を、私たちも叩き込まれてきたのです。大切なのは、何かあれば会社が責任を持ってくれるという姿勢でした。走り出せば1人ですが、仕事は決して1人でやるものではない。お互いに思い合って助け合うという、私たちならではの組織の強みがKONOIKEの安全品質をつくっていると思います。

**手順を守り、確実に仕事をしていく。
私に特別なエピソードは必要ありません。**

私にとって「期待を超える」とは、お客様に対してというより、まず自分自身が会社の中でどう期待に応えられるかだと考えています。手順を守り、品質を守り、確実にやっていく。それがお客様の信頼に

つながり、私たちのブランド力向上にも貢献していくことにつながっていく。お客様から「堤が来てくれるなら大丈夫だな、あの人ならいいね」と言ってもらえるような自分であり続けたいと思っています。自分としては普通にルールを遵守して、きちんと仕事をするだけですが、結果としてそのようにお声がけいただけたら、最高ですね。私にとって、特別なエピソードは必要ないんです。

**変わりゆく時代にも、
変わらない大切なことがある。**

硫黄の運搬・配送はもう約15年担当しています。硫黄は硫酸の原料ですが、その硫酸は人々の生活に欠かせないものです。最近では、自動車の電池や電子機器の洗浄などにも多くに使われています。そんな風に、未来をつくる新しい産業の発展に貢献していると思うと、毎日の仕事にもこれまでとは違ったやりがいを感じますね。新しい仲間への教育面では、やはりルールを守ることの大切さを丁寧に教えています。これは、時代がどんなに変化しても変わらないこと。運転をはじめ、さまざまな確認事項なども手を抜かず、省かない。中途で入社する人も多いのですが、人にはいろんな癖があります。経験ある人のプライドを傷つけないように気をつけながら、KONOIKEのルールに即してもらおうよう努力しています。チーム全員で思い合って取り組み、「安心できる会社」。それが、私が考えるKONOIKEのキャッチフレーズです。



現場の力

05

全員が働きやすい環境をつくることも、
大切な仕事です。

東日本支店 青梅流通センター営業所 サブグループリーダー

比留間 友美

リーダーとメンバー間のコミュニケーションが、 仕事の品質をつくると 생각합니다。

KONOIKEグループ全体でも古くからお付き合いが続く、食品メーカー様の物流業務に携わっています。私自身は、学生のアルバイト時代から約20年間、契約社員、社員として、倉庫のピッキング業務やフォークリフト業務を担当しており、現在は管理業務がメインになっています。大規模な倉庫ではないですが、全国No.1を目指す「指差呼称」など、独自の売り物になるような取り組みをチーム一丸となって続けています。その中で、私は会計や勤怠管理業務だけでなく、日々のあらゆる業務における、リーダーとメンバー間のパイプ役となれるよう意識しています。スタッフが働きやすい環境をつくるには、円滑なコミュニケーションが一番大切と考えているからです。アルバイト時代の上司が教えてくれた「働く楽しさ」が、今も仕事に対する姿勢の原点です。それを、しっかりと次の世代にも伝えていきたいと思っています。

物流は、人の存在が真ん中にある仕事。 人が助け合って考えるチームワークが大切です。

実は若い頃、半年間だけここを辞めたことがあるんです。作業服ではない、他の制服に憧れて……。でも、実際の仕事の楽しさを見出せず悩んでいる時に、当時の上司や同僚が心配してくれて、声をかけて

くれました。だから、今の自分があると思っています。フォークリフトが私の天職なのかなって思いましたね(笑)。とにかく運転が好きだったんです。出産後に復帰する時も、すごく不安だったのですが、みんな温かく迎えてくれました。ロボットで自動化しても、やはり人の存在が真ん中にあると思います。どのプロセスにも、結局人が関わる仕事。そう思います。みんながお互いに助け合って考えていくチームワークづくりに、もっともっと貢献していきたいですね。

苦難を乗り越え、結束が強くなる。 物流はこれからも、一人ひとりの力だと思ふ。

以前、主要メンバーが同時に数人退職した際の現場運営や東日本大震災時の出荷対応など、いくつもの苦難を乗り越えてきました。でも、これらの経験が営業所のメンバーの強い結束につながっていると思います。特にメンバーが減った時には、一人ひとりの力って大きいんだと、あらためて実感しました。現場上がりのフォークリフト乗りだった私も、次の世代を考える存在になってきました。倉庫の現場と輸送で、それぞれのリーダーがこの30年で築き上げてくれたものを土台に、これからの時代にあった価値を新たにつくり、それを次の世代に受け継いでいってもらえるようにしていきたい。まさにいま、試行錯誤しているところです。人がつくる物流の魅力を、もっと大きくしていきたいと思っています。



現場の力

06

魔法はない。みんながひとつになって、
同じ方向を向くこと。

関東支店 神栖営業所 チーフリーダー

原 広幸

トラブルの宝庫といわれた職場を、 みんなで変えていきました。

あるメーカー様の工場内で、フッ素樹脂製造の生産・品質の管理をしています。私の想いは2つ。品質面で世界一の製品を安定的に生産できるようにすること、そして、仲間が怪我なく操業できる安全な職場環境をつくることです。フッ素樹脂は、自動車をはじめ世の中のさまざまなものに使われる中間原料。高品質の製品を絶え間なくつくるのが最良の結果です。今でこそ、表彰していただけるほどの安定生産を実現していますが、実は私が配属された最初の頃は“トラブルの宝庫”と呼ばれるほどの問題職場でした。オペレーションミス、装置の不具合。今と機械は変わらないのに、そういったことの連続でした。ある時、やらされ感が強い現場で、多額の弁済金を支払う品質事故が発生したのを契機に、自らの進退をかけ、トラブル撲滅への活動を始めました。すると、仲間が一致団結して、改善へ向けて動き出してくれたんです。

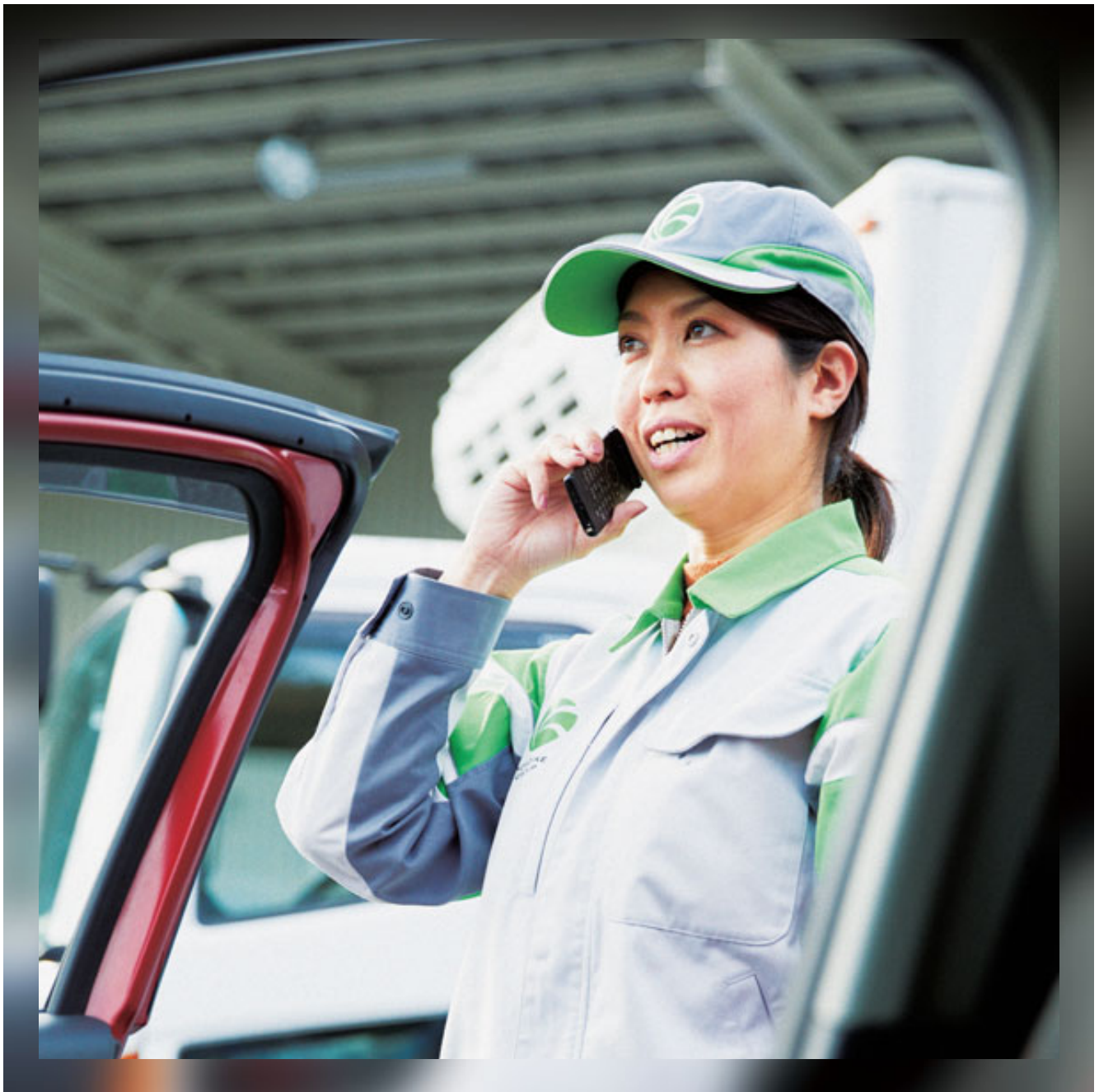
お互いに気を配り合い、心配し合う。 その大切さに仲間同士で気づいていった。

そこからは、仲間の意気込みがすごくなりました。大切なのは、みんなが同じ方向を向くこと。これに尽きます。受け身ではなく、自分たちからやる姿勢が備わり、実際に現場が良くなる成功体験が重なる。すると、それが一人ひとりの自信となり、職場

風土に変化が生まれ、優れた安全品質と生産性向上という成果を勝ち取ることができるのです。我々の成果は、安定操業です。魔法はありません。お互いに気を配り合いながら、心配し合いながら、日々愚直に作業を進めていく。それがいかに大切かを、みんなが気づいていった結果が、今をつくっているのだと思います。

少しでもいい製品をつくりたい。 その想いを、仲間と積み重ねていきたい。

メーカー様の米国のお客様から、鹿島産のフッ素樹脂製品に「GOLD」という評価をいただき、「地元米国工場産より鹿島の方がほしい」と仰っているとお聞きしたことがあります。時折こうしたお話をいただくと、社会に貢献している実感があり、本当にうれしくなりますね。「期待を超える」という言葉を、最初は重く感じましたが、日々の積み重ねに誇りを持つということだと理解しています。でも、信用は一瞬で消えるもの。いつもヒヤヒヤしながら業務にあたっています。良き仲間のおかげで、現在は10年連続で無災害を継続中です。また、設備メーカー様では対応不可とされた短時間の設備停止トラブルも、我々独自のアイデアを積み重ねて対策を実行し、発生件数ゼロで推移しています。原点は、少しでもいい製品をつくりたいという気持ちです。これからも、仲間と一丸となって頑張りたいです。



現場の力

07

仕事も、環境も、
柔軟な発想で壁を越えていきたい。

国際物流関西支店 広島営業所 副長

寺垣 美穂

**お客様の真のニーズは何かを考え尽くす。
それが、「期待を超える」ということ。**

現在、海上と航空の国際貨物輸送業務やプラントの海外移設などを担当しています。広島に来る前は国内の物流倉庫にいました。国内物流の現場から現在のフォワーディング業務まで、物流のダイナミズムを肌で実感しています。物流業界を志望したきっかけは、阪神・淡路大震災の経験。自分が通っていた小学校が倒壊して、救援物資が届かない、給食がなくなるなど、身近なものがなくなって本当に不便になり、物流の大切さを実感したことでした。物流は決してなくなる。「あるべきもの」ですね。私にとって“期待を超える”というのは、毎日の小さな困難を超えて、「お客様の真の期待は何か」を考え尽くすことだと思っています。自己満足ではなく、お客様と向き合って、本当に求められていることを探す。その結果、期待を超えたかどうかは、お客様が判断することだと思います。

**お客様との密なコミュニケーションが、
「助かったよ」「ありがとう」のひと言になる。**

国際物流の仕事は、営業先にさまざまな業種・業界のお客様がいます。だから、「助かったよ」「ありがとう」「また頼むよ」そんなひと言の積み重ねが大切だと思っています。業務で不安に思うことがあ

る時や決断しなくてはいけない時は、正直にお客様に「どうしましょう」と話したり、もしもの場合の選択肢を一緒に考え、共有していただく。そういったコミュニケーションを重ねていくうちに、お客様の真のニーズがスピードなのか、品質なのか、価格なのか、先回りして判断できるようになるんです。

**すべてが、フラットになっていく時代。
柔軟な発想で仕事や環境づくりに取り組みたい。**

物流の現場に長くいますが、本社の経営企画部でダイバーシティに関する活動を担当していた経験もあり、男女関係なく働きやすい環境や仕組みを整えていくことも大切だと考えています。KONOIKEは熱くて濃いキャラの男性が目立つ会社ですが(笑)、女性が活躍を続けている会社でもあります。既存の考え方に固執しない柔軟な発想も、もっと活かされるといいですね。物流も、国内のお客様と海外の市場を分けて考える時代ではないと思いますし、業界自体も今までの文脈の物流だけでは成り立たない気がします。KONOIKEも、自動化やAIの活用、新事業の開発など、さまざまな新しい挑戦を続けています。私も、ここ広島に来て数年が経ち、たくさんの素敵な人のご縁に感謝しながら仕事をしています。これからも柔らかな発想を大切にして、日々の業務に取り組んでいきたいと思っています。



現場の力

08

社員の考え方やお客様を想う気持ちが、
ブランドを強くする。

関西中央支店 滋賀流通センター営業所 副長

金丸 康宏

倉庫の次の可能性を考える。他社に先駆けて挑戦する、好奇心のDNAだと思います。

ほぼアパレルに特化した自社の流通センターで業務を統括しています。1日に数千点に及ぶ出荷を、数名の社員と100名を超えるパートさんで作業にあたる中、一からすべてを経営の視点で取り組んでいます。ですので、日々の業務は大事なポイントを絞ってパートさんに伝え、目線を合わせながら権限移譲しています。さらに、アパレルの倉庫として保管・出荷だけでなく、縫製やアイロンなどワンストップで提供できるサービスの可能性も大きいと考え、自社倉庫の操業状況を見極めつつ、他の倉庫さんとタッグを組んでの新規業務など、次の一手も考えながら運営を行なっています。KONOIKEは「お客様の喜ぶ顔が見られるなら全部やります」と他社に先駆けて挑戦するような、企業全体として好奇心が強いからこそ、業務領域が広いのだと思います。上司もそれを許してくれるDNAがあると思いますね。

特別なことではなく、長年取り組んできたことに評価をいただくことが誇りです。

日本最大手のアパレルメーカーのひとつである私たちのお客様がユーザーアンケートを実施した際、さまざまな項目の中で、私たちが担当している「梱包」が突出して高い評価をいただき、あるエンドユーザー様のフリーアンサーの中で「梱包状

態が非常にきれいでワクワクしました」と書かれてあったんです。これには感激しました。このメーカー様は、長年のお付き合いの中で、好奇心あふれる私たちの先輩方がさまざまなアイデアを重ね、現在の関係に至っているお客様です。そのように、コツコツと継続してきたKONOIKEの提案がひとつの形となって評価をいただけたことは、何か特別な機械を入れて改善につながったというような事例とはまた違い、本当にうれしく、誇りに思えるものでした。こういったことを今後もどれだけ繰り返していくことができるか。それが、お客様や社会の期待を超えていけるか、だと思います。

今やっていることをしっかりと続けていく。

DNAを絶やさぬことが使命だと考えています。

期待を超える。最初は大変な言葉だと思いましたが、お客様に話したところ、「今やっていることをこれまで通り続けたらいいんじゃないの」と言っただけなんです。「期待、超えてないの?」「いや超えてるはずですよ」と(笑)。そんなやりとりをさせていただける、いい関係にあります。これまでの自信が確信に変わりました。ブランドが社員を強くするのではなく、社員一人ひとりの考え方やお客様に対する想いがブランドを強くする。今やっていることをしっかりと続けていけば自然にブランドは強くなる。今までもそうして大きくなってきた会社。そのDNAを絶やさずにやっていくことが使命と考えています。





私たちは、ブランドプロミスである「期待を超える」という言葉に、一人ひとりが違う考え方を持っています。ある人は、お客様の考えを先回りした新たな提案と言い、ある人は、日々の安全を守り抜くことで自分自身への期待を少しずつ超えていくことだと言います。そのような多様性も、私たちKONOIKEの強みだと考えています。時代の変化へ柔軟に対応し、お客様の新しいニーズや社会の要請に俊敏にお応えしていく。それぞれに違う超え方が、次の仕事の価値を創造していくに違いありません。これからのKONOIKEに、どうぞご期待ください。